

# テキストの文学性の評価について

浅原正幸<sup>1</sup> 加藤真輝<sup>2</sup> 古宮嘉那子<sup>2</sup> 加藤祥<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 国立国語研究所 <sup>2</sup> 東京農工大学 <sup>3</sup> 北海道大学

masayu-a@ninja1.ac.jp

## 概要

本研究は、日本語テキストの「文学性」を主観評定に基づき定量化する。国立国語研究所報告所収の動詞・形容詞・比喩の文例 5,981 例を対象に、具体性・抽象性・文学性・多義性・美感・快適性の 5 尺度をクラウドソーシングで評定し、1,811 名から延べ約 12 万件の回答を得た。比喩資料は抽象性・多義性・文学性・美感が高く、文学性は抽象性・多義性・美感と正に、具体性と負に相関した。混合効果モデルでも、文学性はとくに抽象性と美感・快適性で強く説明された。得られたデータは、文学性の多次元の把握と自動推定・文体制御の基盤となる。

## 1 はじめに

日本語テキストの「良さ」や「文学性」は、これまで研究者の直観や印象批評に基づいて論じられることが多かった。具体性／抽象性、多義性、美感といった関連要因は指摘されてきたものの、それらが読者の主観的判断としてどのように結びつくかを、体系的データに基づいて検証した研究は十分ではない。そこで本研究では、文例に対する五つの尺度（具体性、抽象性、文学性、多義性、美感／快適性）を設計し、大規模主観評定データを収集して、文学性評価の構造を記述・分析する。

本研究の動機は、日本語の文章表現に対する「良さ」や「文学性」といった評価が、どのような側面に基づいて形成されているのかを経験的に明らかにする必要性に基づく。従来の文体論や文章読解研究では、個々の研究者の事例分析に基づき、具体性・抽象性、文学的性格、多義性、美感／快適性などが文学性に関わる要因として論じられてきたが、これら複数の観点が読者の判断にどのような形で関与しているのかは、体系的な主観評価データに基づいて十分に検証されていない。

そこで本研究では、日本語の例文を対象として、各文章表現に対し (1) 具体的表現であるか、(2) 抽象

的表現であるか、(3) 文学的表現であるか、(4) 複数の妥当な読み（解釈）が可能か、(5) 美しく・心地よい表現か、という五つの側面から評定を行う調査を設計し、大規模な主観評価データを収集する。

## 2 対象

本研究で対象とする資料は、いずれも国立国語研究所報告として刊行された以下の三著作 [1, 2, 3] を電子化したデータベース版 [4, 5, 6] である。

- 宮島達夫著『動詞の意味・用法の記述的研究』[1] (国立国語研究所報告 43, 1972 年) を電子化したデータベース版 [4]
- 西尾寅弥著『形容詞の意味・用法の記述的研究』[2] (国立国語研究所報告 44, 1972 年) を電子化したデータベース版 [5]
- 中村明著『比喩表現の理論と分類』[3] (国立国語研究所報告 57, 1977 年) を電子化したデータベース版 [6]

本研究では、これらの原報告書 [1, 2, 3] そのものではなく、主として上記 DOI で公開されている電子化データベース版 [4, 5, 6] を分析対象とした。具体的には、宮島資料（動詞）から 3,826 例、西尾資料（形容詞）から 1,212 例、中村資料（比喩）から 943 例、合計 5,981 例の文例を抽出した。中村資料は文学作品からのみ収集された比喩表現用例である。宮島資料と西尾資料は、文学作品も含むものの論文や雑誌などから広く収集された用例であり、比喩表現用例も一部に含むがほとんどの用例は比喩表現ではない。今回の分析にあたり、電子化の過程で生じた明らかな OCR 誤りについては、原報告書と照合しつつ旧字体の誤認を含めて再修正を行った。

## 3 手法

本研究では、図 1 に示すような評定画面を用いて、提示した各表現（文）について五つの観点から主観評価を行った。評定は 1 文ずつ行い、各文に対

以下の表現（表現全体）について判定してください。

【針ノ木峠、白馬岳（しろうまだけ）、焼嶽（やけだけ）、槍ヶ岳（やりがたけ）、または乗鞍岳（のりくらだけ）、蝶ヶ岳（ちょうがたけ）、その他多くの山岳の険しく麗い立つのはここだ。】

1. 具体的な表現ですか。
  - 0:まったく違う
  - 1
  - 2
  - 3
  - 4
  - 5:そう思う
2. 抽象的な表現ですか。
  - 0:まったく違う
  - 1
  - 2
  - 3
  - 4
  - 5:そう思う
3. 文学的な表現ですか。
  - 0:まったく違う
  - 1
  - 2
  - 3
  - 4
  - 5:そう思う
4. 複数の妥当な読み（解釈）が可能ですか。
  - 0:まったく違う
  - 1
  - 2
  - 3
  - 4
  - 5:そう思う
5. 美しい・心地よい表現ですか。
  - 0:まったく違う
  - 1
  - 2
  - 3
  - 4
  - 5:そう思う

35

確定して次へ

図1 評価画面の例

して以下の五つの尺度を回答させた。

1. **具体性**：当該表現が、特定の場所・事物・情景などをどの程度具体的に想起させるかを評価した。
2. **抽象性**：逆に、当該表現が、個別の事物に還元されない抽象的・一般的な内容をどの程度表しているかを評価した。
3. **文学性**：表現の文体的な洗練度、修辞性、いわゆる「文学的」らしさの度合いを評価した。
4. **多義性**：文脈に依存して複数の妥当な読み（解釈）が成立し得るかどうか、その程度を評価した。
5. **美感／快適性**：語順やリズム、語感などを含め

た、当該表現の美しさ・心地よさを総合的に評価した。

いずれの観点についても、評価は表現全体を対象とし、0「まったく当てはまらない」から5「そう思う」までの6件法リッカート尺度で回答を求めた。

本調査は2025年11月にオンライン上で実施した。具体的には、11月10日（約1時間55分）および11月20日（約1時間17分）の二回に分けて、Yahoo! クラウドソーシングを通じて参加者を募集した。最終的な評定者数は1,811人であり、各文例について少なくとも20人（条件によっては40人または60人）の評定が得られるように設計した。

調査の実施に先立ち、国立国語研究所の研究倫理審査を受け、研究計画は承認されている。参加者には事前に調査の目的・内容・所要時間について示し、同意を得た上で回答を求めた。

## 4 結果

### 4.1 資料別の平均値と分布

本研究で用いた各文例は、引用情報に含まれる著者名に基づき、宮島資料（動詞）、西尾資料（形容詞）、中村資料（比喩）の三群に分類した。文例数は、宮島資料3,826例、西尾資料1,212例、中村資料943例、合計5,981例である。これらについて、具体性・抽象性・文学性・多義性・美感／快適性の5尺度の評定平均を算出した結果が表1、全体の平均値が表2である。

まず、尺度ごとの平均値を資料別に見ると、以下のような傾向が見られる（いずれも0-5の6件法である）。具体性については、動詞資料（宮島）が3.22、形容詞資料（西尾）が3.17とほぼ同水準であるのに対し、比喩資料（中村）は2.60にとどまる。すなわち、動詞・形容詞の例文は、比喩の例文よりも総じて具体的な情景や事物を喚起すると評価されている。

抽象性については、比喩資料（中村）が2.98と最も高く、ついで形容詞資料（西尾）が2.36、動詞資料（宮島）が2.25である。比喩の例文が最も抽象的な内容を表すものとして解釈されており、動詞・形容詞の例文はそれよりも具体的なレベルで理解される傾向にある。

文学性については、比喩資料（中村）が3.22と最も高く、形容詞資料（西尾）が2.99、動詞資料（宮島）が2.80と続く。比喩表現を収めた中村資料が、

表1 資料別（宮島・西尾・中村）にみた各尺度の平均値

資料	<i>n</i>	具体性 (CONCRETE)	抽象性 (ABSTRACT)	文学性 (LITERARY)	多義性 (POLYSEMOUS)	美感／快適性 (PLEASANT)
宮島（動詞）	3,826	3.217	2.249	2.804	2.348	2.525
西尾（形容詞）	1,212	3.172	2.358	2.992	2.445	2.642
中村（比喩）	943	2.597	2.982	3.221	2.675	2.657

表2 全データにおける各尺度の平均値

<i>n</i>	具体性 (CONCRETE)	抽象性 (ABSTRACT)	文学性 (LITERARY)	多義性 (POLYSEMOUS)	美感／快適性 (PLEASANT)
5,981	3.110	2.386	2.908	2.419	2.569

文体的な洗練や修辞性の点で最も「文学的」と評価されていることが分かる。

多義性については、比喩資料（中村）が2.68、形容詞資料（西尾）が2.45、動詞資料（宮島）が2.35となっており、比喩資料において複数の読みが成立しようと評価される例が多いことが示される。動詞・形容詞資料はこれに比べれば、意味が一義的なものが多い。

美感／快適性については、比喩資料（中村）が2.66、形容詞資料（西尾）が2.64、動詞資料（宮島）が2.53程度であり、三群の差は小さいものの、比喩と形容詞の例文が動詞の例文よりわずかに高く評価されている。描写的・比喩的な表現が文の「美しさ」や「心地よさ」に一定の寄与をしていることが示唆される。

全体（5,981例）でみたときの平均値は、具体性3.11、抽象性2.39、文学性2.91、多義性2.42、美感／快適性2.57程度であり、本研究で用いた例文群は概ね「やや具体的」で、「やや文学的・快適」といえる中庸な水準にある。

## 4.2 尺度間の関係

まず、全データをまとめた5尺度間の相関係数を表3に示す。具体性（CONCRETE）と抽象性（ABSTRACT）の間には $r = -0.796$ の強い負の相関が見られ、具体的と評価される文ほど抽象的とは評価されにくいという直観的に妥当なトレードオフが数量的に確認される。一方、文学性（LITERARY）は抽象性、多義性（POLYSEMOUS）、美感／快適性（PLEASANT）とそれぞれ $r = 0.588, 0.529, 0.632$ の正の相関を示しており、文学的と感じられる文ほど抽象度が高く、複数解釈の余地を持ち、かつ美感／快適性の面でも高く評価される傾向が明らかである。

資料別の相関係数を表4-6に示す。具体性と抽象

表3 全データにおける尺度間の相関係数

	CON	ABS	LIT	POL	PLE
CON	1.00	-0.80	-0.41	-0.53	-0.05
ABS	-0.80	1.00	0.59	0.69	0.29
LIT	-0.41	0.59	1.00	0.53	0.63
POL	-0.53	0.69	0.53	1.00	0.34
PLE	-0.05	0.29	0.63	0.34	1.00

表4 宮島（動詞資料）における尺度間の相関係数

	CON	ABS	LIT	POL	PLE
CON	1.00	-0.77	-0.38	-0.49	-0.03
ABS	-0.77	1.00	0.57	0.67	0.29
LIT	-0.38	0.57	1.00	0.50	0.64
POL	-0.49	0.67	0.50	1.00	0.33
PLE	-0.03	0.29	0.64	0.33	1.00

性の負の相関は、宮島資料で $r = -0.773$ 、西尾資料で $r = -0.717$ 、中村資料で $r = -0.657$ と、いずれの資料でも強く保たれている。また文学性と抽象性、多義性、美感／快適性との相関も、三資料でおおむね共通した水準にあり、動詞・形容詞・比喩という違いを越えて、文学性評価の背後に共通の構造が存在することを示唆している。

これらの相関表と付録図2を併せてみると、抽象性・多義性・美感の三尺度が、資料を問わず文学性評定と強く結び付いていることが定性的・定量的の両面から確認できる。

表5 西尾（形容詞資料）における尺度間の相関係数

	CON	ABS	LIT	POL	PLE
CON	1.00	-0.72	-0.26	-0.49	0.03
ABS	-0.72	1.00	0.48	0.67	0.24
LIT	-0.26	0.48	1.00	0.47	0.60
POL	-0.49	0.67	0.47	1.00	0.30
PLE	0.03	0.24	0.60	0.30	1.00

表6 中村（比喩資料）における尺度間の相関係数

	CON	ABS	LIT	POL	PLE
CON	1.00	-0.66	-0.16	-0.28	0.03
ABS	-0.66	1.00	0.43	0.50	0.22
LIT	-0.16	0.43	1.00	0.38	0.61
POL	-0.28	0.50	0.38	1.00	0.33
PLE	0.03	0.22	0.61	0.33	1.00

## 5 考察

本研究では、国立国語研究所報告に収録された動詞・形容詞・比喩の例文を対象として、具体性・抽象性・文学性・多義性・美感／快適性という五つの観点から大規模な主観評定データを収集し、その統計的性質を検討した。その結果、日本語の文に対する「文学性」評価は、単一の次元ではなく、抽象性・多義性・美感と密接に結びついた複合的な評価として現れることが示唆された。

まず、資料別の平均値に関する分析から、比喩資料（中村）が、具体性の点では動詞・形容詞資料よりも低く、抽象性・文学性・多義性・美感のいずれにおいても相対的に高い評定を受けていることが明らかになった。とりわけ、比喩資料は文学性評定において最も高い値を示し、形容詞資料、動詞資料の順に続くという序列が確認された。このことは、比喩的構成そのものが「文学的らしさ」を強く喚起し、抽象的で含みのある表現が文学性評価に大きく寄与していることを示すものと解釈できる。

次に、尺度間の相関構造を見ると、具体性と抽象性の間には強い負の相関が一貫して観察され、具体的な文ほど抽象的とは評価されにくいという直観的に妥当なトレードオフがデータから裏付けられた。一方、文学性と抽象性、多義性、美感／快適性との間には、全体・資料別を通じて安定した正の相関が得られた。このことから、読み手が「文学的」と感じる文は、抽象度が高く、複数解釈の余地を持ち、かつ語順・リズム・音韻などの側面で美感／快適性が高い表現である傾向が強いといえる。これらの傾向は、動詞・形容詞・比喩という異なる資料群を越えてほぼ共通しており、日本語の文章に対する文学性評価の背後に、抽象性・多義性・美感という共通の基盤が存在することを示唆している。

## 6 おわりに

本研究は、日本語の文に対する「文学性」評価の構造を、大規模な主観評定データと統計的分析に基づいて明らかにすることを目的とした。国立国語研究所報告に収録された動詞・形容詞・比喩の例文を対象に、具体性・抽象性・文学性・多義性・美感／快適性という五つの尺度からクラウドソーシングによる評定を収集し、資料別の平均値、尺度間の相関、ならびに回帰分析・混合効果モデルによる検討を行った。

その結果、日本語の文において「文学的」と感じられる表現は、おおまかに言って、(i) 抽象度が高く、(ii) 複数の解釈の余地を持ち、(iii) 形式的な美感／快適性が高いという三つの特徴を共有していることが示された。また、比喩資料が一貫して高い文学性評定を獲得していたことから、比喩的構成や象徴性が文学性評価に強く寄与していることも確認された。これらの傾向は、動詞・形容詞・比喩という異なる資料群を越えて安定しており、日本語の文レベルの文学性を支える共通の認知的基盤が存在することを示唆している。

本研究の貢献としては、第一に、日本語テキストの文学性に関する、文レベルでの大規模主観評価データを整備し、公開可能な形で整理した点が挙げられる。第二に、抽象性・多義性・美感／快適性と文学性との関係を、相関分析と回帰分析により定量的に示し、従来の文体論・文学理論で指摘されてきた「曖昧さ」や「形式的美」といった要因を経験的データによって裏付けた点が挙げられる。第三に、混合効果モデルを通じて、文ごとの差や評定者ごとの差を明示的に扱いつつ、それでもなお安定して現れるパターンを抽出した点に、方法論的な意義がある。

以上のように、本研究は、日本語の文学性を、直観や印象批評に依存することなく、数値データに基づいて議論するための基礎的な枠組みを提供するものである。今後、文体論、認知科学、自然言語処理など隣接諸分野との連携を深めながら、「文学的な文とは何か」という古典的な問いに対して、より精緻で経験的な答えを与えていくことが期待される。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP25K00459, JP23K21935, JP22K18483 および国立国語研究所共同研究プロジェクトの助成を受けたものです。

## 参考文献

- [1] 国立国語研究所. 動詞の意味・用法の記述的研究. 国立国語研究所報告, No. 43. 秀英出版, 東京, 1972.
- [2] 国立国語研究所. 形容詞の意味・用法の記述的研究. 国立国語研究所報告, No. 44. 秀英出版, 東京, 1972.
- [3] 国立国語研究所. 比喩表現の理論と分類. 国立国語研究所報告, No. 57. 秀英出版, 東京, 1977.
- [4] 国立国語研究所. 『動詞の意味・用法の記述的研究』データベース版. Dataset, 2022. 国立国語研究所報告 43 『動詞の意味・用法の記述的研究』の例文等を電子化したデータセット.
- [5] 国立国語研究所. 『形容詞の意味・用法の記述的研究』データベース版. Dataset, 2022. 国立国語研究所報告 44 『形容詞の意味・用法の記述的研究』の例文等を電子化したデータセット.
- [6] 国立国語研究所. 『比喩表現の理論と分類』データベース版. Dataset, 2022. 国立国語研究所報告 57 『比喩表現の理論と分類』の指標比喩・結合比喩例文等を電子化したデータセット.

付録図 2 は、文学性評定と他の四尺度との関係を、資料別（宮島・西尾・中村）に散布図と回帰直線で示したものである。いずれの尺度に対しても、資料ごとに類似した傾向が見られ、とくに抽象性・美感・多義性との間でなだらかな右上がりのパターンが確認できる。

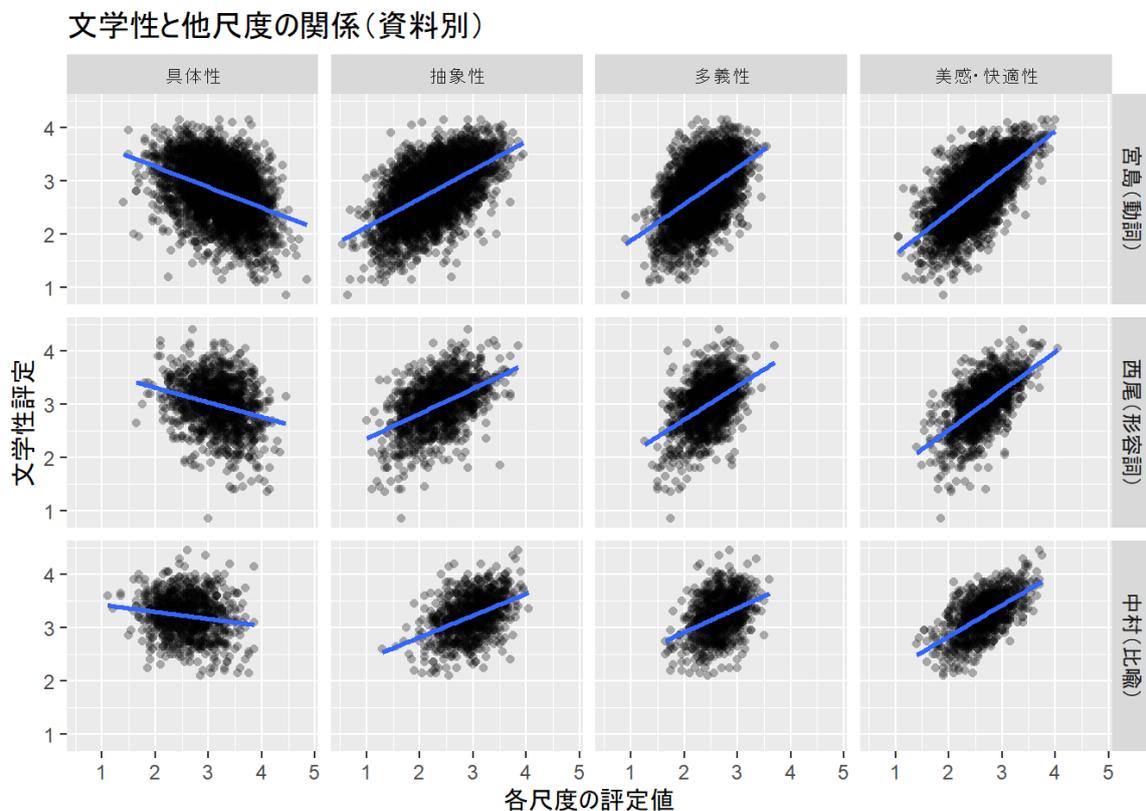


図 2 文学性他尺度の関係 (資料別)